

今週のメニュー

■トピックス

◇「これからの住宅シリーズ」を樹脂窓ホームページに掲載開始

■随想

◇「農ビリサイクルと私」 ー第二章：黎明期ー

株式会社黒田工業 黒田 實

■編集後記

■トピックス

◇「これからの住宅シリーズ」を樹脂窓ホームページに掲載開始

この度、樹脂窓のホームページに住宅と健康、省エネなどについてどなたに見ていただいても「読みやすく、わかりやすく」を目指した新企画「これからの住宅シリーズ」の掲載を開始しました。

本メルマガでもご紹介してきた大学での検証試験やシンポジウム・講演でお世話になった著名な先生方に執筆、監修をしていただき、今まで少し難しすぎて敷居の高かった内容を、親しみ易くまたわかり易く説明するようにしました。

第一回は、岩前 篤 教授に監修いただき、住宅と健康を題材とした「[幸せな生活をおくるための住まい造り](#)」を掲載しました。岩前先生は大手住宅メーカーを経て近畿大学建築学部の建築環境システム研究室で、建築物の省エネルギーや耐久性、健康性、快適性などを研究され、現在は建築学部の学部長もされています。

お話の冒頭で先生は住まい造りについて次のようにおっしゃっています。

「衣」「食」「住」は昔から人間が生きていくのに欠かせない3大要素で、近年、「衣」「食」はどんどん充実していますが、「住」においては、『かわいい住宅』に住むことはあっても、『快適に過ごせる住宅』に住んでいるでしょうか？「家」の新築やリフォームには大変な費用がかかります。よく考えて健康で快適に過ごせ、将来、悔やまない住宅を手に入れましょう。

更に、快適な住まいを手に入れる注意点について、[あつし先生](#)に次のような質問をし、イラストやグラフを交えて先生が回答する形で説明いただきました。

Q1. どんなことを考えて家造りを計画したらいいですか？

A1. 将来、健康に過ごせる家造りを考える必要があります。



[幸せな生活を送るための
住まい造りHP](#)



Q2. 気温や室温の変化と人の健康にはどのような関係があるのですか？

A2. 寒さや急激な温度変化は健康に大敵です。

Q3. 家を断熱化するとどんな効果がありますか？

A3. 高断熱住宅は健康改善に役立ちます！！

Q4. 新築するならどんな家？

A4. 新しい住宅モデル『ゼロエネルギー住宅』がお勧めです！

Q5. リフォームするならどんな方法？

A5. 部分エコリフォームをお勧めします！

これから住宅を建てようと考えている方、リフォームをしようと考えている方、今の住まいを何とかしたいと考えている方など、先ずはこのあつし先生のお話をお読みいただき、快適な住宅で健康的な生活を目指されてはいかがでしょうか。

引き続き No. 2、No. 3 を掲載していきますのでご期待ください。

ここで樹脂窓について簡単にご紹介します。

日本の一般的な住宅に用いられる窓は、幾つかの種類があります。

昔の住宅に、使われていた鉄製窓や木製窓、現在主流として使われているアルミ窓、今は寒冷地で普及している樹脂外窓や木製窓、その樹脂とアルミを組み合わせた複合窓、音や寒さを避ける為に新たに普及し始めた樹脂内窓など、それぞれに特徴のある窓があります。

樹脂窓は、ドイツで生まれ北欧や北米などで広く普及している窓です。現在、日本で最も普及している窓はアルミ窓ですが、樹脂窓は北海道では95%以上、東北では約40%を占め、性能が評価され徐々に南下してきています。

樹脂窓の特徴は、断熱性や気密性に優れることから、室内温度が外に逃げにくい特徴があります。このため省エネだけでなく、結露しにくくカビやダニ等の発生を抑える効果もあります。日本では、アルミ窓を現在の窓というならば樹脂窓は未来の窓といえるのかもしれませんが。是非、[ホームページ](#)をご覧ください。



樹脂窓

■ 随想

◇「農ビリサイクルと私」 ー第二章：黎明期ー

株式会社黒田工業 黒田 實

農ビリサイクル事業をやってみようと思った頃は、田中角栄元総理が打ち出していた日本列島改造論の時代で、大量生産・大量消費の考え方が国民の主流であり、廃棄物のあり方を危惧する考え方は皆無に等しかった。私の周りの先輩や友人たちも同じ様な考え方で、誰もが「何をやっているんだ。今の時代にこんなものを再生しても使うところはない。」と口々に言っていたが、私自身は、石油等の資源がない日本という小さな島国には、今は成功しなくとも自分の子供たちか孫の時代になれば絶対リサイクルが必要になると自信に溢れていた。しかしながら、当時、工場を訪れる人達は、皆冷笑して帰って行ったのが、現実であった。

お酒の木製の一升瓶を入れる箱を口の字の形に広場に置き、ブルーシートを敷いて水を入れプールのようにし、その中で廃農ビを朝から晩まで洗った。雪の降る極寒中でも洗い続けた。その辛い地道な作業を経て、やっとトラック一台分を洗浄でき、大阪の自動車用のステップマット製造会社に納入できた。当時、従業員は5名しかおらず、誰かを連れて行くと工場が止まってしまう恐れがあったので、妻と一緒に行くことにし、延岡から国道10号線を通って大阪に向かった。お金がなく食事もできなかったのも、延々と大阪まで走り続けた。洗浄されたフィルムを納入して代金を貰えたなら、帰りにおいしい食事をしようと妻と話していた。



作業当時のトラック

ところが、大阪のその工場に到着し事務所に入ってみると、その会社の社長は誰かと将棋をしており、気乗りしない様子で玄関まで出てきて、「空いている場所に降ろしてくれ。どうせ宮崎の農家から拾ってきたものだろ！」と言い放ち、支払いは0円だった。帰る途中、涙が止まらなかった。途中で立ち寄った防府のドライブインで、お金がなかったので二人で貝汁を一杯注文し、その貝汁どんぶりの両端から妻と交互にすすった。その時の貝汁のおいしさは今でも忘れることができない。

ある日、宮崎県庁に何かの用事で行ったとき、頭にハチマキを巻いた漁連の人達6人が資材部長に詰め寄りながら、「新しい船を買え！」と叫んでいた。一人は、「エンジンの冷却水取り口に農ビを吸い込んでエンジンが焼きついた。」と叫び、もう一人は、「スクリュアの軸に農ビフィルムが巻き付き軸が曲がり、船が使えない！」と荒々しい言葉で怒鳴っていた。宮崎県は、農業では遅れを取れないとの思いから、他県より多くビニールハウスを使っていた。その影響が、ウミガメのみならず、他の産業にまで出ていた。その現状を目の当りにして私は、早く農ビ再生を急がねばと焦る気持ちで一杯だった。しかしながら、実態は、事業の入り口の段階で停滞していた。どのような再生工程が良いのか？良い再生材の形状は？再生材の用途は？等々を毎日毎日試行錯誤している段階だった。困り果てて、機械メーカーに相談しても途中で電話を切られる始末で誰も相手にしてくれなかった。フィルムの切断方法だけに絞っても、試行錯誤の連続であった。当時の国鉄延岡駅に国鉄保線（大分鉄道）があり、そこからレールの切れ端を頂き、鍛冶屋でそれを農ビ切断用刃物に加工してもらう為に刃物の絵を描いて、数年間の間に何十回も作り直して漸く切断能率が上がっていった。

その頃、大阪の朋来鉄工所（現在のホーライ）の初代社長の鈴木さんが来社され、「今、我々は、廃タイヤの切断機を開発している途中である。ダンプ車のオイルシリンダを利用してギロチンでタイヤを切断する機械を作ろうとしている。農ビは止めた方が良い。軟質シートだから切断は難しいよ！そのまま熱処理したら？」と言われたが、私がおの時鍛冶屋と共同で開発していた特製の刃物を取り付けた機械を見せると鈴木社長の顔が豹変し、驚いている様子だった事を鮮明に覚えている。その後、鈴木社長とは友人になり、九州出張の時には必ず延岡まで訪ねて来てくれるようになった。

このリサイクル事業の創成期には、多くの人に冷笑され、悔しい思いを多々して来たが、朋来鉄工所の鈴木さんのような、少数では有るが、掛替えのない良き理解者もできた。

（つづく）

次回は、「第三章：揺籃期」です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

WBC（野球）があっという間に終わってしまい、WC 最終予選（サッカー）も期待通りには行かず、真央ちゃんもキム・ヨナに敗れ、遼君も決勝に進めない。「むむっ」と思っているうちにプロ野球のペナントレースが始まっていました。

いえ、別にプロ野球ファンという訳ではないのですが、順位はなんとなく気になります。夜のニュースで本日の対戦結果を見ながら、「巨人はまだ終わってない。阪神負けた。ドラゴンズ勝った。」と呟いたら、突然横から家族に笑われました。「ドラゴンズと中日が対戦してるの？」って。「いくらなんでも、『中日ドラゴンズ』ぐらい知ってるわよ」とよく見たら、『D 対 中』！あいたた…「D」はドラゴンズではなく DeNA でした。「あっ、球団名で揉めてた話セリーグだったんだ。それで、DeNA って元はどこだったかな？」もう、あきれて返事してもらえません…。(漠)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp